

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：古市 祐介 所属：葛飾区立梅田小学校 記録日：平成 29 年 2 月 25 日

キーワード：コミュニケーション、表現、興味・関心、学習意欲、自信、見通し、達成感、動画・写真  
家庭学習

## 【対象児の情報】

- 学年 小学校 5 年生 女児
- 障害名 知的障害 WISC-IV 全検査 73 注意欠損多動性障害 (AD/HD)  
二次障害として自尊心の成長に遅れの可能性有り
- 障害と困難の内容  
○新しいことや初めてのことに對して抵抗感が非常に強い。  
5 年生から取り組み始める南中ソーランに對して、踊れるようになりたいという気持ちはあるが、いざ練習になると教室の後ろに座り込み、支援員の先生に甘えてしまう。  
○自分でもできると自己判断したことに対しては、積極的に取り組める。  
「周囲からやりたいことだけやっている」という誤解を招くことがある。保護者も児童の理解に苦しむことがある。  
○非言語による推理力・思考力に困難がある。  
言葉での説明は、語彙数の課題だけでなく、知的に理解が難しい面がある。

## 【活動目的】

- 当初のねらい  
○児童が「自分でもできそう」だという興味・関心・意欲をもたせる。  
○iPad を活用して事前に活動内容を伝え、見通しをもたせる。  
○動画やイラスト、写真を活用して児童の理解を促す。
- 実施期間 平成 28 年 4 月下旬から平成 29 年 2 月下旬まで
- 実施者 古市 祐介
- 実施者と対象児の関係 学級担任 児童

## 【活動内容と対象児の変化】

- 対象児の事前の状況  
<生活面>  
• 食事、着替え、清潔、排泄、手伝いは自立している。一人登下校をしている。
- <学習面>  
• 国語の読み書きは、小学校 1~2 年生程度。漢字は 1 年生程度。算数は、小学校 3 年生程度。九九、余りのある割り算、3 桁の数の足し算、引き算ができる。

【活動の具体的内容】

## 〇4月「iPadに慣れて慣れよう」

・児童本人がiPadに慣れ親しむことを目標として、操作を覚えるために4月下旬より毎週末、家庭に持ち帰りを実施した。週初めには、どのような使い方をしたか担任に報告してもらった。

主に、YouTubeとカメラを使用していた。YouTubeは想定範囲内。意外であったのは、カメラである。自分のことや家庭での様子をあまり話さない児童であったので、自分から「これ、うちにいるカブトムシです。」と写真を見せながら報告してくれたのは、担任として嬉しく思った。写真で話したいものを見せることで、自分から伝えるのが容易になったからだと考えられる。

### <使用アプリ>

		
カメラ	YouTube	写真

### <使用の様子>



写真① 対象児が撮影したカブトムシ

対象児童は、これまで「言葉で伝えること」が苦手であった。家での様子や週末の出来事を記憶しておき、それを発表することは児童に障害特性上困難を感じていた。これまで、メモ帳や日記帳を試してきたが、少しずつ様子を伝えることができるようになってきたが、iPadで伝えたい対象物を撮ることで、写真を見ながら伝えたいことを思い出しながら発表することができるようになった。カブトムシの種類、出身地、角の特徴など覚えておくことが難しく、言葉で表現することができない箇所を写真を見せながら話してくれた。

## 〇5月「アプリを使ってみよう」

・児童がiPadを使うことに慣れてきた5月中旬より、iPadのアプリを学校の学習に活用し始める。教科学習では、「学習課題に気付くこと、自ら考え、自力で解決すること」を学級目標として取り組んでいる。指導上、言葉での指導が多くなりがちだが、指導者側が意識して視聴覚機器の活用や写真、イラスト、音声を多く使った。また、自分たちで考える時間や場を多く設定して適宜、支援することで対象児童が自主的に活動する場面が少しずつ増えてきた。

生活単元学習「夏野菜を育てよう」野菜の成長をカメラで撮る。

国語「詩を音読しよう」学級で詩を音読したのをボイスメモで録音する。

算数「およその数 3けた足す3けたの計算」計算機を使って答えを求めたり、答え合わせをしたりする。

体育「連合運動会のダンスの練習をしよう」お手本ビデオを撮影して、児童が家庭で練習をできるようにする。

体育「水泳」NHKforSchool はりきり体育ノ介を視聴する。

<使用アプリ>

			
カメラ	写真	計算機	NHKforSchool

<使用の様子>



写真②

対象児童の一学期の目標は、「クロールで25m泳げるようになる。」である。目標を達成するために、6月の水泳に向けて、事前学習としてアプリ（NHKforSchool）の「はりきり体育ノ介」を視聴した。対象児童は、4月に比べてiPadの操作にも慣れており、視聴する番組まで一人でたどり着くことができた。昨年の対象児童への水泳指導記録をもとに、動画を視聴しながら、自分の苦手だったところやできなかったところと一緒に確認することができた。以下の会話は、動画を視聴することで児童が気付けた課題点とその解決策を知るまでの流れである。

- C. 息継ぎの仕方が難しい。  
 T. 動画に出てくる水泳選手の耳と肩を見てみて。  
 C. う〜ん、くっついてる?!  
 T. そうそう。そうしたら目線はどこを向いてる?  
 C. 上?  
 T. そうそう。上向いたら息できるでしょ?

**○6月下旬7月「運動会に向けて南中ソーランの練習を始めよう」**

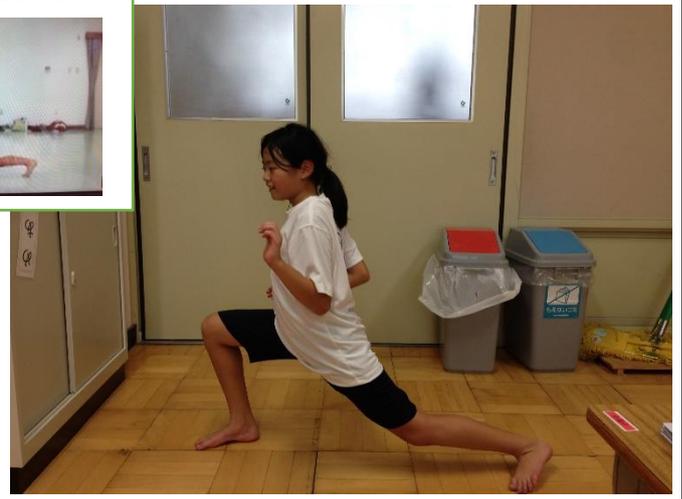
生活単元学習を中心に「南中ソーラン」の練習を始める。はじめに学習計画を児童に伝え、スタート（学習課題）とゴール（目標）を明確にする。南中ソーランの振り付けを確実に身に付けられるようになるために、振り付けパートを一つ一つ分けたスモールステップで指導する。お手本ビデオを児童のiPadに入れ、家庭でも視聴できるようにする。細かいところの指導は学級指導であるが、家庭の協力を得てお家でも練習してもらいように保護者と相談をする。

<使用アプリ>

	
カメラ	写真

<使用の様子>

お手本ビデオ



写真③

写真④

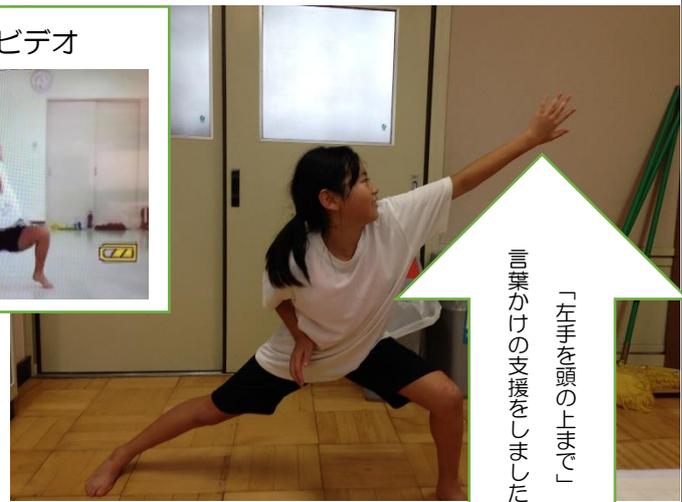
改善前 課題点に気づき解決法を知る

改善後 解決法を行い改善できたことを知る。

- ①腰を落とす。そのために、右ひざを90度に曲げる。
- ②右手を腰に添える。そのために、右ひじを曲げる。
- ③左脇を閉める。できている箇所に気付かせ、褒める。

- ①腰を落とすことによって、左脚が伸びる。
- ②右ひじを曲げることで、左手を腰に添えることができる。
- ③現在の形が正しい形であることに気付く。

お手本ビデオ



写真⑤

写真⑥

改善前 課題点に気づき解決法を知る。

改善後 解決法を行い改善できたことを知る。

- ①顔の向きは左手の方を向く。そのために、左手を見ることを意識させる。
- ②左ひざを曲げる。普段から行っている準備運動の伸脚を想起させ、結びつかせる。
- ③右脚を伸ばす。左脚を曲げることで、自然と右脚が伸びる。

- ①左手を見ていることで、顔の向きが改善されている。
- ②下半身だけ伸脚を繰り返し練習することで、上半身の振り付けと同時に行うことができた。
- ③写真③と⑤を繰り返し行うことで、基本となる「ろこぎ」の振り付けができたことを伝える。

## ○9月「通常の学級と一緒に5・6年合同練習に参加しよう」

9月20日（火）より通常の学級5年と一緒に南中ソーランの練習が始まる。7月同様、学級での指導と同時に通常の学級と一緒に練習していくことを伝える。

<合同練習の様子>



写真⑦

対象児童は、これまで通常の学級との交流給食や運動会の合同練習にあまり良いイメージを抱いていなかった。2年生まで通常の学級に在籍していたが、学習についていけず、友達ともトラブルになりがちであった。特別支援学級に転入してきたことで学習にも前向きになってきたが、現在でも通常の学級との交流には後ろ向きである。今回の南中ソーランの練習を行うにあたり、児童の苦手な「言葉から動きをイメージする」ことをiPadを活用して「視覚から動きをイメージする」ことで、振り付けを早く覚えることができた。児童が、振り付けを覚えられたことで、担任もより細かいところの指導ができるようになった。その都度、同じ方法で振り付けを見直し改善していくことで、児童が南中ソーランに自信を持ち始め、自主的に練習をするようになった。通常の学級との練習に不安があったようだが、初めての合同練習では、崩れることなく45分間踊りきることができた。

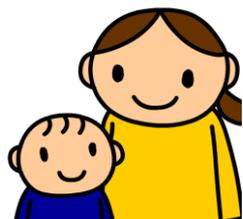
## ○10月「運動会で南中ソーランを踊ろう」

10月、対象児童は、本校での運動会において、5・6年合同の「南中ソーラン」を最後まで全力で踊りきることができた



児童の感想

写真や動画を見るとわかる。お手本ビデオを見ながら説明してもらえると踊り方が分かった。何回も見た。やる気が出てきた。



保護者の感想

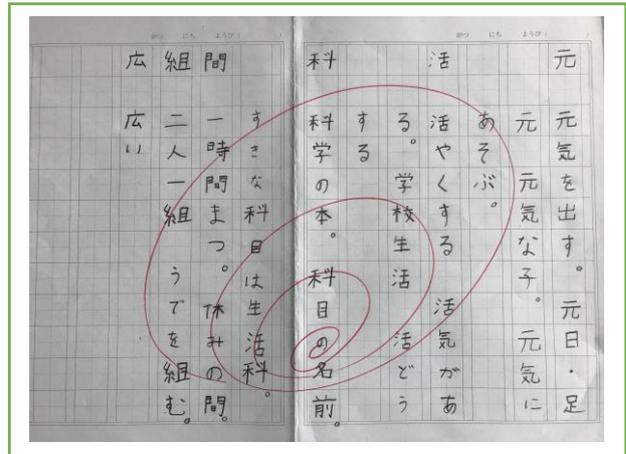
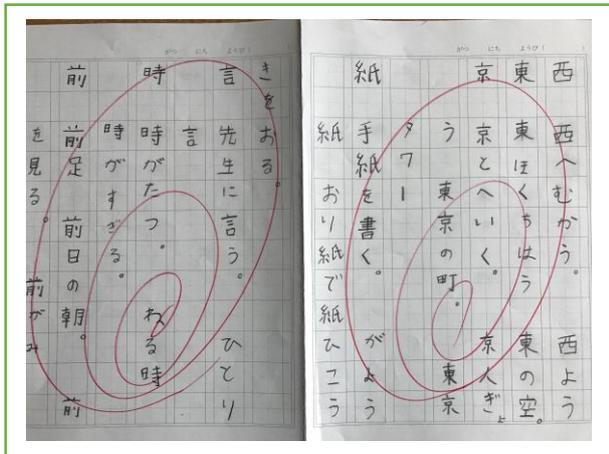
毎日、iPadを使っている。自分で操作して、南中ソーランの動画を見ながら踊る練習をしていた。

\*運動会当日までの練習、活動支援については、エビデンス参照。

## ○1月「漢字の学習の様子」

1年間通して、国語科では漢字の学習を行ってきた。漢字ドリル、学習ノートを中心に繰り返し学習してきた。児童の学習意欲をさらに高めるために、児童が集中して取り組める時間や書く活動への抵抗を、ゲーム要素がある「漢字遊び」のアプリを活用して漢字指導を行った。学習に取り組める時間を伸ばすことができた。また、家庭にiPadを持ち帰ることで、自主的に学習に取り組むことができた。

「書く」ことへの抵抗が少しあった児童であったが、ゲーム感覚で学習できる「漢字遊び」は、児童の漢字への関心を「書いてみよう」という意欲につながった。1月末には、自分の漢字ノートに手本の漢字・短文を書き写せるようになった。



<使用アプリ>



## ○2月「通常の学級と交流学习をしよう（5年調理実習）」

児童の3学期のめあて「通常の学級の友達と仲良くなりたい」を達成するために、交流学习を実施した。児童の気持ちは、「一緒に勉強したい。」と前向きであった。一方で、児童の課題「新しいことへの抵抗感・不安感」があった。そこで、事前に家庭科専科の協力を得て、活動内容をビデオ撮影した。また、活動の見通しをもたせるために、保護者の協力を得て、家庭で調理実習の練習をしてもらった。通常の学級との交流では、児童数が多いため、不安感があったものの、事前に活動の見通しや調理の練習をしていたため、当日の学習は楽しく参加することができた。

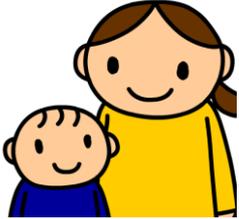
<使用アプリ>





### 児童の感想

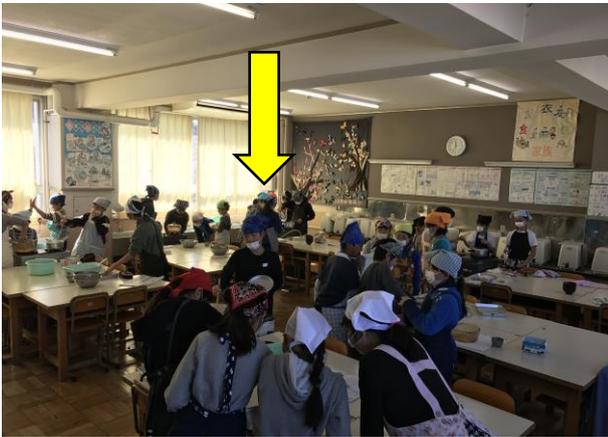
味噌を入れる順番やにぼしのいらないところがよくわかった。  
野菜の切り方が授業と同じだったので安心した。



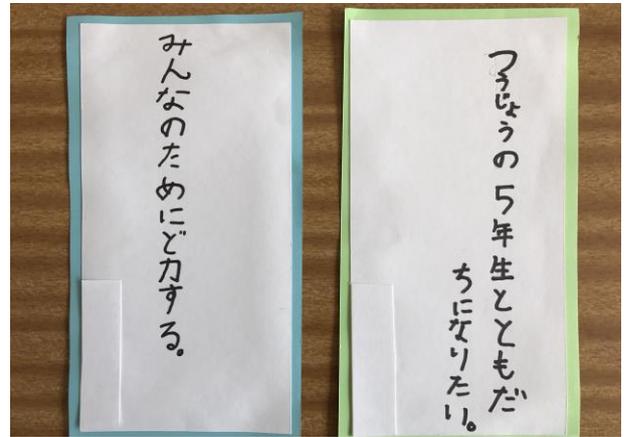
### 保護者より

家でもご飯・みそ汁を作りたいと言ってきました。  
交流学習の前日も一緒にご飯・みそ汁を作りました。

交流学習の様子



3学期のめあて



交流学習の事後学習で、児童に3学期に立てためあての「つうじょうの5年生とともだちになりたい。」について話を聞いたところ、

児童「剣道の大会で会ったことがある女の子がいた。」

担任「何か話した？」

児童「いや、なにも・・・。」

担任「剣道の大会で会ったら、あいさつするんだよ。」

児童「・・・うん・・・。」

「人とのコミュニケーション」というところで、まだ課題はあるものの、児童の「ともだちになりたい。」という気持ちの変化は、保護者も喜んでいた。また、南中ソーランの合同練習を経験したことで、通常の学級の5年生との社会科見学や交流給食に意欲的に参加ができています。

## 対象児の事後の変化

・本プロジェクトに参加して、iPadを受け取ったことで、「児童本人は嬉しい。どんなことをするんだろう。家で使ってもいいの？」とiPadに対して強い意欲を示した。

・写真やイラスト、動画は児童の苦手な部分をサポートしてくれ、学習課題や自ら解決しようとする気持ちを高めることができた。

・その反面、家では、iPadの使い方や約束を守れず、本来やらなくてはいけないことを後回しにしてしまうことがあった。

・保護者からは、上記の課題もあるが、それ以上に得られるものがあった。「7月にiPadに南中ソーランの動画を取り組むと自主的に練習をしていた。」と報告があった。以前に比べて写真やイラスト、動画を見ることで、イメージすることが難しかったことが「ああ、これかあ。」と言葉とイメージが結びつくようになった。学校での学習が楽しく分かるようになったと話してくれた。

・学校では、初めてのことに未だ取り組むことが苦手ではあるが、頑張ろうとする姿勢が多く見受けられた。

◎中間報告9月17日時点での、最大の変化は、近隣小学校3校の5年生全員が参加する水泳記録会において、通常の学級の児童に混ざって記録会に参加することができた。

◎児童の1学期の目標であった「クロールができるようになる」が達成することができた。

・事前に自校の5年生全員が記録を測る時は、学習に参加することができなかった。

◎8月には、自分から保護者に「プールに行って泳ぐ練習がしたい。」と申し出ることができた。

◎9月23日、初めての5・6年生合同練習に参加して、45分間エスケープすることなく踊りきることができた。

◎9月27日、通常の学級との合同練習では、進んで「早く行きましょう。」と意欲的な発言が出ていた。練習中も私語や不適切な行動は見られず、自信をもって参加できている様子が見受けられた。

#### 【報告者の気づきとエビデンス】

##### ・主観的気づき

児童が「自分でもできる・できた」と達成感をもてたのは、iPadを使った視聴覚教材が合っていたからではないだろうか。これまでの児童への支援は、「繰り返し練習をする」「言葉かけの支援」であった。魔法の種プロジェクトを実践するにあたり、対象児童のWISC、発達検査、主治医の報告書、保護者の聞き取りから実態の把握を再度行った。児童の課題は、児童の「覚える力」や「体の操作」「ボディイメージをもつ、気付く」ことが課題であることが分かった。

児童の実態に、今回活用したiPadのカメラは適していた。動画の撮影、撮影直後の振り返り、操作時間・動作のレスポンスにストレスがない。持続して集中することが難しい児童にとって、その場ですぐに見ることができたのが、児童の「覚える」を支援することができた。

視覚的な支援は、児童の学習活動にも適していた。見通しをもつことが児童の不安を取り除き、活動に参加できそう、しようという意欲につながった。漢字の学習では、iPadの操作だけでなく、学習ノートの字を綺麗に書くことにつながった。書くことの意欲が高まったことで、学習中の板書も丁寧に書き写すことができるようになった。

・エビデンス（具体的な数値、運動会の南中ソーラン練習の様子、児童の証言、保護者の報告）

○…授業としてiPadを活用 ◎…児童が自主的に活用

		授業	休み時間 20分休み 昼休み含む	家庭	備考
9月1日	木				
9月2日	金				
9月3日	土			◎	
9月4日	日			◎	
9月5日	月		◎	◎	
9月6日	火	○	◎	◎	
9月7日	水		◎	◎	
9月8日	木	○	◎	◎	
9月9日	金		◎	◎	
9月10日	土			◎	
9月11日	日				
9月12日	月		◎		
9月13日	火	○	◎	◎	
9月14日	水		◎	◎	
9月15日	木	○	◎	◎	
9月16日	金	○			
9月17日	土			◎	
9月18日	日				
9月19日	月				敬老の日
9月20日	火	○	◎	◎	通常の学級 合同練習
9月21日	水	○	◎		通常の学級 合同練習
9月22日	木				秋分の日
9月23日	金	○	◎		
9月24日	土			◎	
9月25日	日				
9月26日	月			◎	通常の学級 合同練習
9月27日	火	○	◎	◎	
9月28日	水	○	◎	◎	通常の学級 合同練習
9月29日	木	○	◎		通常の学級 合同練習
9月30日	金				
10月1日	土				
10月2日	日			◎	
10月3日	月		◎	◎	
10月4日	火	○	◎		
10月5日	水	○		◎	
10月6日	木		◎		通常の学級 合同練習
10月7日	金	○		◎	
10月8日	土				
10月9日	日			◎	
10月10日	月				体育の日
10月11日	火	○			運動会 全体練習
10月12日	水	○			通常の学級 合同練習
10月13日	木				
10月14日	金	○	◎	◎	通常の学級 合同練習
10月15日	土		運動会		

iPadにお手本ビデオを取り入れる。家庭に持ち帰った日から自主的に練習を始めました。持ち帰った週は毎日視聴していました。

休み時間の練習は、全て自主的に取り組みました。

事前に練習に取り組むことで、参加することができました。

9月23日、基本の振り付けを身に付けることができました。

振り付けを覚えられたという自信からiPadの支援を必要とする場面が減り始めました。

運動会前日、学級の友達5・6年と一緒に振り付けの最終確認をしました。

- その他エピソード（画像などを含めて）
- 5月初旬、児童は、自分の活動の様子を撮影することを嫌がっていた。
- 成功体験を積み重ねていくことで、自分の姿を振り返られるようになった。
- 自分の姿を見て、課題に気付き、その解決策を考えられるようになり始めている。
- 「児童の実態」、「これまで対象児童に取り組んできた支援」、「iPadの活用方法」をまとめ、跳び箱運動「台上前転」の指導を行った。
- 1度目の学習で活動を撮影、その場で即時振り返りをすることで、2度目の学習で台上前転を成功させた。

